

## ■高校野球のケーススタディー（第21回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

### ○ 打球がベンチまで転がり、控えの選手が拾い上げてしまいました・・・？

高校軟式野球選手権兵庫大会で生じた事例について紹介します。

1死走者なし。投手前に軟式ボール特有の回転のかかった低いフライ飛球が上がりました。投手は、ダイレクトで捕球しようと前進し、グラブに触れたものの、フェア地域で落球。打球は守備側ベンチの方向へ転がりました。ところが・・・ファウルボールと勘違いした控え選手が、ベンチ前に出てきてボールを拾い上げてしまいました。さて、このケース、どのような処置になるのでしょうか。

打者走者もファウルボールと思って、1塁までゆっくりと走ったようです。

審判員はボールデッドとして4氏で集まり、控え選手がもしボールを拾い上げていなかったらどうなっていたかを協議しました。このケースでは、もし控え選手の妨害がなかったとしても打者走者は2塁へ達することができなかったと判断し、1死走者1塁で試合を再開させることにしました。ルール上の規定では、どのような取り扱いになるのか確認しておきましょう。

公認野球規則 6.01(d)では、次のように規定されています。

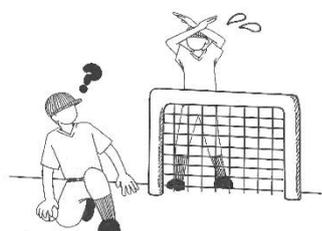
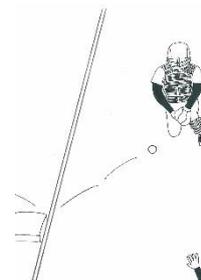
『競技場に入ることを公認された人が競技を妨害したとき、その妨害が故意でないときは、ボールインプレイである。』

しかし故意の妨害のときには、妨害と同時にボールデッドとなり、

審判員は、もし妨害がなかったら競技はどのような状態になったかを判断して、

ボールデッド後の処置をとる。』また、【原注】において、『ボールを拾い上げたり、捕ったり、意図的に触れたりすることや、押し戻したり、蹴ったりすれば、この行為は故意の妨害とみなされる。』とされています。したがって、このケースでは控え選手が明らかにボールを拾い上げていたことから、故意の妨害とみなし、ボールデッドとして4氏で協議を行ったのです。

類似のケースとしては、1塁線や3塁線を抜けるフェアの打球に対し、外野に位置したボールボーイやブルペンで準備している選手がファウルボールと勘違いして打球を捕ってしまったことがあります。「高校野球のマナーとルールを学ぼう！」の第81回でも紹介しています。確認しておきましょう。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：谷口 真奈佳さん（3年）

イラスト：中川 早紀さん（3年） 谷口 真奈佳さん（3年）